

衛生研究所の取り組み

健康危機事象発生を想定した訓練を実施しました

衛生研究所では、健康危機事象発生を想定した模擬訓練等を行い、危機対応力の強化を図っています。

地方衛生研究所全国協議会の近畿ブロックでは、令和5年10月に食中毒や感染症による健康危機事象発生を想定した模擬訓練（参加15機関）を実施しました。「高齢者施設で発熱・咽頭痛・せき等の呼吸器症状がみられる入所者が多数発生しており、その一部が肺炎と診断され入院している」との想定で訓練を行いました。

和歌山市衛生研究所健康危機管理要領に従い、所内に健康危機管理委員会を設置し、入伝される情報を精査し対応策を検討しました。呼吸器系ウイルスによる感染症の可能性を疑い検査を実施した結果、入院患者2名の臨床材料からヒトメタニューモウイルスの遺伝子が検出され、インフルエンザウイルス、新型コロナウイルス、その他呼吸器系のウイルスが不検出であったことから、「ヒトメタニューモウイルス」を原因とする感染症であると特定されました。

訓練終了後には、訓練参加機関による報告会を行い、課題等の情報交換を行いました。このような模擬訓練に参加することで、食中毒や感染症の検査体制の強化を図っていくとともに、所内の危機管理対応体制の見直しを行っていきます。



高度安全実験室内の
安全キャビネット



リアルタイムPCR装置